

しながわ花海道

勝島運河の周囲約2kmの土手に地域の住民や学校の子供たちでお花畠を作っている。2002年10月から土手に花の種をまき、春は菜の花、秋はコスモスの花が一面に咲き多くの人が集う地元の自慢の新名所となつた。



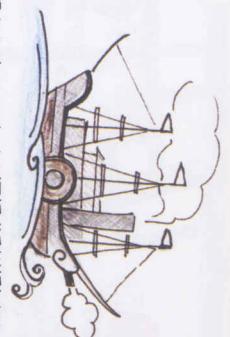
山内容堂の墓所



立会川の北側(東大井3丁目)にはかつて土佐藩品川下屋敷があった。15代土佐藩主「山内豊信」(とよしげ)は安政の大獄で井伊直弼に蟄居を命じられ、この地で3年半を過ごした。幕末期では四賢侯の一人として幕府にも大きな影響を与えた人物。46歳で急逝したが本人の遺言でこの地に眠っている。(立会川小学校脇)

*幕末の四賢侯 松平春嶽(福井藩)
鳥津吉松(薩摩藩)
伊達宗城(宇和島藩)
山内容堂(土佐藩)

坂本龍馬の原点・浜川砲台



立会川駅から歩いてすぐの浪橋(浜川橋)から立会川の河口あたりにかけて、土佐藩の艦隊砲台敷があつた。川の流れの先は、現在は勝島運河となつていて、かつては世界につながる海だった。この屋敷内には、浜川砲台が築かれたが、ペリーが2度目に来航した際にはあの坂本龍馬も砲台要員として配置されていた。

修業のため江戸に出ていた。千葉道場で剣術を学んでいたが、ペリー来航で佐久間象山の門下生となり西洋流砲術を学ぶことになる。ここが原点となり、龍馬は世界を見据えた独自の思想で、周知のような活躍を見せた。

龍馬にとって浜川砲台は、人生のターニングポイントとなる大切な場所である。

*2004年3月、砲台の石垣の一部と思われる石が発見された。

黒澤明としながわ

黒澤明(1910-1998)は、「羅生門」「七人の侍」など30本の映画作品を撮り「世界のクロサワ」と呼ばれた名映画監督。現在の品川区東大井に6人兄弟の末っ子として生まれ、1918年に新宿区に引っ越し、までの約8年間をこの地で過ごした。彼はこの品川時代に、初めて映画を見るのだが、それは青物横丁駅近くにあった映画館であつたと伝えられている。残念ながらその映画館は残っていない。

立会川にやつて来たボラの大群

2003年2月、立会川に突然ボラの大群が現れ、たちまちボラフイーバーが湧き起こった。ボラは出世魚。10cmまでをオボコ、イナツコ、スペシリ、25cmまでをイナ、50cmまでをボラ、それ以上をトドとその成長に合わせて呼び方が変わる。

立会川にボラがやってきたのは、川の水がきれいになつたからだ。JR総武線の地下部分(東京・錦糸町駅間)から湧き出る地下水を川に入れるようになってから、見違えるようにきれいになつた。ボラがやってきたおかげで、地元の人々に対する愛意も変わり、まちは以前にも増して元気になった。

この地は幕末、黒船が来航した際「若き龍馬」が過ごしたと伝わる処です。
龍馬が江戸で剣術の修行中にペリーの率いる黒船艦隊が現れました。
土佐藩は江戸湾警備で品川に砲台を築き龍馬もその警備陣に加えられた。



龍馬のまちへ
ようこそ!

坂本龍馬としながわ歴史マップ

明治2年、土佐藩品川下屋敷跡(東大井3丁目)に当時の古賀一平品川縣知事は日本で始めてのビール工場を造った。通説では横浜より1年前に工場が造られた。経営は軌道に乗らなかつたが品川にこそ日本のビール製造の元祖である。当時の品川県知事等の意思を引き継ぎ「品川縣ビール」として復刻した。(品川区内特定の酒屋さんで販売中!)500円=小ビン

